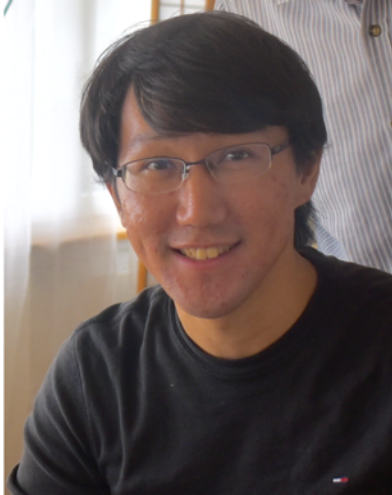


小さな証

土の器として

櫻井翼

スイス日本語福音キリスト教会



私はスイスへは会社の研修制度でやってきました。入社5年目以上の社員を対象に、世界各国にあるグループ会社へ一年間限定で派遣され研修するというプログラムです。

派遣先の希望は一応出せますが、会社が決定しますし、原則Noとは言えません。私はヨーロッパというざっくりとした希望を出していました。日本で仕事

をしている時から、ドイツ関係の仕事はしていたので、「ドイツに行ければいいかなー」と考えていました。上司から派遣先がスイスになったと聞いた時、「ヨーロッパで良かったな」という安堵の気持ちもありましたが、スイスでの仕事のイメージもなく、スイスでどんな仕事するんだろうと漠然とした不安もありました。しかし神様は、今私に必要なものを与えようと、このスイスの地に導いて下さったのだと思います。

私は両親がクリスチャンで小さい頃から教会に通っておりました。そして小学2年生の時に2つ上の兄と一緒に大阪豊中にある教会で洗礼を受けました。ただ、洗礼の時の主観的な記憶がなく、信仰的にも何か変わったという強い記憶も残念ながら残っていません。

その後私が小学4年生の時に引っ越しをし千葉へ移りました。家から徒歩5分に教会があることもあり、日曜日は礼拝と伝道会、水曜日は祈祷会に毎週家族で集っていました。その頃、小学生だった私は野球が大好きでいつも友達と放課後に野球をして遊ぶ少年でした。

そのため地域の少年野球チームに入っている友人から誘われることが多々あり、私もチームに入りたいなと思っていました。しかし、何度か見学へはいきましたが、練習の日が日曜日のことが多く、結局両親にチームに入りたいと相談することなく断念したことを覚えています。中学、高校でも、日曜日の部活は休みをもらい、教会に通っていましたが、水曜日も部活が終わった後、教会へ直接行き、夜の祈祷会も守っていました。

しかし、自分の自由が制限されている、教会に通うことが面倒だなと思うことはなく、むしろ自発的に教会に行っていると思っ

ていました。その頃はある意味、「真面目なクリスチャン」かなと思っていました。

高校卒業後、非常に厳しいと思っていた希望の大学に奇跡的に入ることを許され、親元を離れ秋田にある大学に在学しました。しかし、朝の弱さ、教会の遠さ、授業の忙しさにかまけて、教会から離れてしまいました。恐らく4年間で10回も行っていないと思います。その時に、これまでも全く自発的ではなく、ただ親に連れられて教会に行っていただけだったと気づかされました。

しかし特に教会には行きたくないと思っていたわけでもなかったため、仕事の関係で次は名古屋にある教会へ導かれました。4年間のブランクがありましたが、神さまはまさに放蕩息子の話のように迎えてくれました。しかしそれだけではありませんでした。神さまの思いが色々な事を通して、私の心をきこりのように打ちつけてきました。

クリスチャンはアクセサリーではない、取り外しができないものだ。人は神のことばによって生きる、聖書を読まずに生きるクリスチャンは健全な姿ではない、など毎週牧師先生を通して語られるメッセージは、私のこれまでのクリスチャンとしての未熟さ、傲慢さ、脆さを指摘してくれました。そんな時に心に響いたのは、土の器という歌でした。欠け、ヒビだらけの私を神はそのまま愛し用いてくださるとい歌詞に、今まで感じたことのないほど、自分の罪深さと神さまの愛に気づかされました。

スイスJEGの皆さんとは、集会の時以外でも家に招いて食事を共にさせていただいたり、素晴らしい交わりの時を持つことができ、本当に感謝しています。聖書の言葉に向き合い、神様への感謝にあふれ、周りの人と愛ある関係を築いていく皆さんの姿を見て、私もこのようなクリスチャンに成りたいと思われました。これはずっと日本の同じ場所にいたら気付かなかった思いかも知れません。神様は私のクリスチャンとしての信仰生活に今必要な人、場所、時間、を不思議な形で与えて下さったと信じています。

本当にこの一年、このような私に皆さんとても良くしてくださり、多くを学ばされ、神様からの恵み、愛を受けるばかりでした。次に遣わされる場所で私も与えられる者になれるよう、お祈りに覚えていただくと幸いです。年間本当にありがとうございました。

